

手足の不自由な子どもたち

はげみ

令和4年度/No.403

4/5

April—May

特集 ミラコン2021～未来を見通すコンテスト～
第4回プレゼンカップ全国大会特集号



第40回(令和3年度)肢体不自由児・者の美術展入賞作品「車イスバスケ」

谷口 拓磨



はげみ

令和4年度/No.403

4/5

April—May

特集 ミラコン2021～未来を見通すコンテスト～ 第4回プレゼンカップ全国大会特集号

C o n t e n t s

- 広場 ミラコン2021～未来を見通すコンテスト～
第4回プレゼンカップ全国大会特集号の発刊にあたって…………… 日本肢体不自由児協会…2
- Sec.1 「なぜ、プレゼンカップを？」
～大会創設の思い～ ……………田村 康二郎…4
- Sec.2 ミラコン2021～未来を見通すコンテスト～
「第4回プレゼンカップ全国大会 FINAL STAGE」…………… 日本肢体不自由児協会…8
- Sec.3 ミラコン2021 第4回プレゼンカップ 発表作品…………… 14
- Sec.4 特別講演
「バリアバリュー～障害を価値に変える～」…………… 垣内 俊哉…41
- Sec.5 ミラコン2021 第4回プレゼンカップ 地区大会について…………… 阿部 智子…46
- Sec.6 ミラコン プレゼンカップ
第1回大会～3回大会までの報告 …………… 大会事務局…52
- 今号の表紙 …………… 谷口 拓磨…58

ミラコン2021〜未来を見通すコンテスト〜 第4回プレゼンカップ全国大会特集号の発刊にあたって

日本肢体不自由児協会

全国の特別支援学校を遠隔システムでつなぎ、肢体不自由特別支援学校高等部で学ぶ生徒を対象とした「未来を見通すコンテスト〜プレゼンカップ全国大会」が、平成30年度より開催され、昨年度で4回目となりました。

日本肢体不自由児協会では第1回大会より協賛しています。

コロナ禍で、オンラインが大きく普及してきた昨今ですが、この大会は当初よりオンラインで開催されていたこともあり、予定通り令和3年度も開催することができました。大会の内容を紹介する前に、当協会と肢体不自由教育とのかかわりについて少し触れたいと思います。

当協会の創設者である高木憲次博士は、四肢体幹機能障害や四肢一部欠損等の障害について、差別や偏見を排除する表現として「肢体不自由」の概念と用語を提唱しました。そして、昭和のはじめごろから肢体不自由児が何らかの生業につき社会で自立していくためには、「治療・教育・職能」の三位一体の上に成立するものであると考えてきました。その中で博士は、昭和20年代後半から昭和30年代前半にか

けて「肢体不自由児に治療と教育を」をスローガンとして、肢体不自由児施設と肢体不自由養護学校の全県設置を目標として掲げました。当時、当協会は肢体不自由児関係の唯一の団体であったことから、4校で発足した肢体不自由養護学校校長会（現全国特別支援学校肢体不自由教育校長会）と連携し、肢体不自由教育の発展に協働しました。学習指導要領の解説書や肢体不自由教育関係出版物等は、発行部数が少ないため、他の出版・印刷会社が敬遠し、それを当協会が受けていたという歴史もあり、現在も全国特別支援学校肢体不自由教育校長会や全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会などの関係団体からは、当協会の主要事業であります「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」への後援をいただくなど、諸々の連携を図りながらさまざまな事業を展開しています。プレゼンカップへ当協会が関わっているのは、このような歴史の背景もあります。

この大会の目的は大会要項に
・全国の肢体不自由特別支援学校に通う生徒の言語能力を向上させるとともに、一人一人が生涯にわたり学び続け

る力を育成し、社会的自立に向けた健やかな成長を目的とする。

・ICTを活用し全国大会を開くことにより、生徒の関心・意欲を高めるとともに、ICTを活用し社会経験を広げる機運を全国の肢体不自由特別支援学校に醸成する。とあります。

発表内容は、「視点を価値に、経験を未来へ」をコンセプトに、自己の経験から得た視点から、自分の描く未来にとって必要な社会や地域への提案です。

日頃培ってきた思考力・言語力を基盤に、特別支援学校生として社会に関わる中で抱いてきた「未来への提言」をプレゼンテーションするプレミアム・ステージです。主催者代表である全国特別支援学校肢体不自由教育校長会の諏訪肇会長は、「生徒たちが生きていく時代は、決まった正解のない予測困難な時代」と言われています。そんな時代だからこそ、肢体不自由特別支援学校の生徒さんたちには、自分の意見を持ち、表現力を身につけ、社会に訴えかけ、納得を得て社会を変化させていける人になってもらいたいと考えています。それがSDGs（持続可能な開発目標）の実現につながるはずですよ」と仰っています。

また、審査員でもあり毎回大会で講演いただいている「ミラコン」の名付け親でもある、株式会社ミライロの垣内俊哉代表取締役社長は、名付けの経緯について次のように仰っています。

2018年（平成30年）、全国の特別支援学校の生徒さんたちが参加できるプレゼン大会を実施したいと、先生方からご相談をいただきました。その想いに

非常に共感し、「ぜひお手伝いをさせてほしい！」とすぐさまお返事したのを覚えています。

先生方と相談を進める中で、大会の名前を付けてほしいという大変光栄な依頼もいただきました。弊社の社名には、「自らの色を描ける未来、自らの路を歩める未来をデザインする」という想いが込められています。本大会も、生徒さんたちにとって、自分の「ミライ」を創造するきっかけとなる「コンテスト」であってほしいという願いを込め、「ミラコン」と名付けました。

障害があることを卑下するのではなく、障害は環境にあると考え、自分たちの力でその環境を変えていってほしいと願っています。

「はげみ」では、これまで企画した特集にマッチした作品をいくつか紹介してきましたところ、多くの反響がありました。

全国大会への切符を勝ち取った作品は、すべて素晴らしいものばかりです。

読者の方をはじめとする関係各位より、「1冊にまとめたものがあれば」との声に呼応して、毎年「はげみ」の年度初めの4/5月号で「プレゼンカップ大会特集号」として今年度から刊行してまいります。

発表者の願いを叶えることができる読者との出会いを期待するとともに、これから挑戦される子どもたちの良き「参考書」ともなれば幸いです。